

# 環境教育パーク

## 遊びながら学び、未来を考える

イギリス西部のマカンレス（ウェールズ地方）に、子供から大人までエコロジーマ暮らしや、石油・石炭といった化石燃料に代わるエネルギー技術を、楽しみながら学べる「C.A.T. (Center for Alternative Technology)」というセンターがあります。

ここはいわば、環境教育のテーマパーク。ヨーロッパ各国から年間約10万人の人が訪れるその魅力とは――。

### 鉱山跡地を再生し環境教育のメッカに

「C.A.T.」の起源は1974年、近代化がもたらした環境破壊という状況を背景に、理想に燃える若者たちが、持続可能な新しいラ



右上はスレートがむき出しだった鉱山跡地。左下はエコキャビン（宿泊施設）。



五感で楽しめる美しいガーデン。



コンパクトな温室。



入場口にある水力（自然湧水）で動くケーブルカー。



さまざまな堆肥の標本。



ショップでは、ガイドブック、書籍や環境グッズを販売。



新鮮でおいしい有機野菜の料理が楽しめるレストラン。



来訪者用のコンポストトイレ。



豚は資源の循環に役かっている。

イフスタイルをめざしてつくった、自給自足のコミュニティです。鉱山跡地だった不毛の地は、コンポスト（有機肥料）づくりを中心とした彼らのたゆみない努力により、果物や有機野菜が収穫できる豊かな土壌に蘇りました。

その後、それまで無償ボランティアに頼っていた運営資金の充足を図るため、入場を有料化して一般に開放。庭園や池、農園や温室、環境教育施設、レストランやショップ、ケーブルカー、宿泊施設などをつくり、環境教育の一大センターへの転換を推し進めてきたのです。

園で栽培された野菜は、オーガニック・レストランの食材に利用され、レストランの生ごみや残飯は、センター内で飼育されている豚の餌に。そして家畜の糞や入場者のトイレの排せつ物からコンポストがつけられるというように、センター内で循環型生活が実践されています。

また、センターには手づくりから市販品まで各種コンポスト容器が数多く展示され、コンポストが生成される過程や、コンポストで栽培した野菜の生育なども学べるようになっています。

当初、センターのエネルギー源はすべて自家発電でまかかっていました。しかし、来場者数の増加に伴う電力不足に備えるには膨大な量の蓄電池やディーゼル発電機が必要とな



水力（波力エネルギー）の実験装置。



木枠やタイヤでできた手づくりのコンポスト。



太陽光発電パネルの展示。雲形の板で押さえると装置が止まるようになっている。



風力発電の展示。実際にセンターでは風力発電が利用され、温水の7割をまかなっている。



30年以上コンポストを追肥した区画は野菜の生長が速く、施していない区画は生育が遅い。



水の活性化・浄水装置のフローフローム。渦を巻きながら落水するときに活性化される。



レストランの屋根にも太陽光発電パネルを設置。



ストロベールハウスの展示。



排水は畜で浄化している。



草屋根の展示。



セルビルドの家。ゲストハウスとしても利用。

り、かえって環境へのダメージが大きくなってきました。そのため今は、電気を一部買い、あとは水力、風力、太陽光といった自然エネルギーを用いています。

多様なエネルギーの併用は、気候変動による供給の不安定さをカバーできるという利点もあります。風力発電や太陽光発電などで電気をつくり、余った電力は電力会社に売っています。化石燃料の使用量を英国平均の20%まで減らすことが目標だそうです。

### さまざまなエコ技術の展示

センター内の建物は、主に自然素材や地元

### 世界にエコライフを発信するために

現在、C.A.T.は有会社と非営利慈善団体の2つが運営。調査・研究、出版、環境教育の各種プログラム、情報提供・会員制通信販売、コンサルティングなど約20部門に分かれて、約100人が活動しています。

C.A.T.は、環境問題の解決に向けて実験を重ね、提案する場。試行錯誤の経緯までも公開するリアリティは、来場者が実生活のなかでエコライフを実践していく大きな原動力になるはず。この環境教育は、地球の新しい未来を創る手がかりとなることでしょう。